
チョイカワ女がイケてるインテリ落とす過程。 。 。 。 。 。

微少可愛

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チョイカワ女がイケてるインテリ落とす過程。。。。。

【NNコード】

N9420C

【作者名】

微少可愛

【あらすじ】

チョイカワポチヤ子なトツコが久々の恋か！――！――！？？？？
そここのイケてる女もそこそこイケてる女も、あんまりイケテない女
も、恋のチャンスは平等なのか？？？？？！

第一話【無料の恋に出会ひかけた系！？】飯三杯食べる系。】

ビーむつ…………

まわりの皆よりは、ちょっとポッチャリだけど顔はまあまあカワイイ（愛嬌がある笑）と言われたり言われなかつたりな高校2年！ いつも、友達とバカな事やつて恋やら愛やらとは無縁の高校生活を送っております…………

大沢 古都つ！！！

通称トツ「で、じゃこますつ…………」

大好きな友達と大好きな家族に囲まれ、まあ一悩みもありますが楽しく生活しておりますつ…………

明日からはいよいよ高校2年！

これからは自分の将来の事、家族の事、そして恋愛について少しは真面目に考えるのが一応目標…………

ルケラッカー

今日から2年！！新しい教室、新しい先生、新しい友達！みんな新しい事づくめの毎日が始まる！

ハ、此二冊を。。。

新しい私のクラス2年A組にはいつもの顔が・・・！

ミコもカネちゃんもサオもアヤもまた同じクラスじゃん！！（^

(^)

また去年みたいに女捨てで騒ぎあがくる感じにならうな予感がブン
ブンやあ――――――――――――

しかも2年A組は男子8人女子32人の女子高状態――――
私たちのオゲレツつプリが加速しそうな予感で、自分でも怖いわ――――
！私が席につくなり
ミーハー精神のかたまりのカネちゃんはわいつわいく

「ねえ――トッコ、あの1番の荒木 章博って人この学校で人気あ
るみたいよつ――――」

「ふーん。なんか身長どでかいな。顔そんなにカッコイイか――？」

「アホつ――おめえーに他人の顔のこと言ひつ資格はねえ！――――」

「そりゃーすいませんわ――」

とにかくアキヒロさんの第一印象はこんな感じ。

「この駅に出来たばかりの私、

これから先、

今まで出来た事のない新しい自分にも出来かけたんだ。出来
っちゃったんだ。」

「こんな感じで私の高校2年生の1日を終えた。

私はお決まりの放課後！女会議に夢中！――

「トックー・アヤとサオがアキロの事知ってるんだって！」

「カネちゃん～あんた彼氏いるじゃん！あんたハイエナの様に男に
食い付いて怖いわ！」

「何言ってんの？――あんたの為にわざわざ食い付いてあげてるん
だからねっ！――16年間男もいないし、小デブちゃんだし、
女捨ててるし、恋話より裏芸能情報で盛り上がるし、ってか体型が
40代だし・・・ねつ！」

「ねつ・・・・・つて！あんたつ！…ここ過ぎじゃボケーーつ！！！…小説じゃないわポツチャリじゃー！！！！…しかも40代つて・・・・なめてるんか！」

「ほらーーー・西葉使いがもうオッサンじやん（笑）！」

「また」の一人やつてるよー。アッコ、カネちゃんひのねこからやめうーーー」

私とカネちゃんのいつもくだらない話を止めたのは、このせひの「私とアヤとサオ。いつもの光景だ。

でも・・・

「いつもの、私達はだんだん変わり始めたんだ。
良いようにも悪いようにも。

一人の男が原因で。

2年生2日目。

「さつそく今日から授業かあー、しかも1限から現国だよー、最悪
！つてかセートツ「は？遅刻？アヤ、サオ、ミユ何も聞いてない？」

「いつもの遅刻でしょーーまた昨日の夜遅くまでバイトだったみた
いだしー。」

1年の頃と変わらず私は毎日バイトに追われて、遅刻常習犯なんて言われた。

今日も昨日のバイトの影響で朝寝坊・・・・・泣

でも、遅刻常習犯、が一人の接点になつたんだ。

「大沢さん？もしかして遅刻？」

あつ・・・・・ヒロアキ・?・?・?・・・違う違う…！…！

荒木 アキヒロ…！…！

「あつ…！おはよーさんっすー…！…！荒木さんも遅刻かいな…！…！良かつたー誰かいて…！…！現国の先生怖いからビビつてたわー」

「なんじゃそりやーー！ヤツパリ大沢さんウケるねーーー！」

「いやあー初めて喋るからヤツパリさん付けが基本でしょーよー！」

「えー！あの先生怖いんだーヤバイな俺らーつてか荒木さんつて呼ぶ人大沢さんが初めてだよー。」

「ヤツパリつてなんじゃ！――！？？」

「だって、大沢トツコはめっちゃ面白いって嘘言つてたしーー。」

「いやあーやっぱ私の面白さメジャー級だったんだね（笑）！－！」

「確かにメジャー級、メジャー級！！！ねえー俺も今日からトッコ
つて呼んでいい？」

教室に向かう短い間に私とアキヒロさんは初めて会話を交した。

「まあーーいつけど。せん付けで。」

「やうやくと申良くなつたらアキヒロでいかして頂あせますわー!」

「またせん付けかい!...!...!」

「あ・・あ・・別にいよいよ!...!...!さがやあ今日から私はアキヒロさんって呼ぶわ!...!」

アキヒロさんはちょっとインテリっぽくて、普通の高校2年生より大人びた感じの人だつた。

その後教室に入った私たちが先生に怒られたことは言つまでもない。
・・・（笑）

「トシロ、おはよー」

「あつ！カネちゃんおはよーっす！…つてか何！…その何かをたくらんでいる顔……」

「あんた…さつさ荒木さんと一緒に来たじゃん…！…もう知り合つち

やつた系！？？小デブちゃんにもついに春到来系！？！

「アホかっ！――そんなんじやね――わつ！――しかも私はポツチャ
リじゃ！――デコ広臣人がっ！――！」

「まあー ポツチャポツチャリのトツコには荒木さんは無理だよねー
まあー あんた顔はまあまあカワイイナビー 中の中つてとこだしねー」

「上の下へらいじやつ！……しかもわたしゃ、どいつもイケメンと呼ばれる奴はあんま好きじゃないんじやよ。『ハーフトロイ人ばあさんよ』。

「うつさいわ！ 小太りじいさんがつ！！！」

カネちゃんは私が教室で少しでもアキヒロさんと喋ると、いつまじんな感じでからんできた（ - - - - ）

正直私はアキヒロさんのことあんまりカッコイイと思えないし、何よりイケメンと呼ばれる類の人種に興味がない！！

皆にイケメンと呼ばれて調子にのってる感じがうざったいからだ。

まあーその前に男の人とからむ事が苦手だった。

ぶりつ子や女らしさからもかけ離れてるし、男の前ではついついふざけてしまつ。

母子家庭だった私は小さい頃から男の人に甘えたり、話をしたりするコツがよく分からなかつた。

だからいつしか、男子たちには
「お笑い芸人」だとか言われたりして、まったく恋愛といつものに
たどりつかなかつた。

でも、心中では寂しいときや泣きたい時には男の人の胸を借りて大泣きしたい・・・なんて思つたりもしてたんだ。

「ジャンケンポンっ！！！！やつたー！！！勝つたー！！！！ト
ツ「は負けたから図書委員決定！！！」

「嫌だあ————アヤ代わつてよー！——あんたバイトしてな
いし暇じゃーん！！！」

「やだよーだつ……あたし部活あるし……そんなに本読まないし……あつ……今日からわざわざ図書委員の活動始まるみたいだから、放課後図書室行つてきてね。」

はあ～最悪だ……あんまり本を読まないあたしが図書委員……
・・しかも一年間も泣！……

その日、私はバイトの時間を使いつぶして図書室に向かった。

「トランクだよー……」

「あっ！！アキちゃん！！アキちゃんも図書委員！？良かつたー知り合いがいてー」

アキちゃんは隣のクラスの友達。

結構オタケっぽいけどかなりの美脚の持ち主！！

但一枝詩何美
一枝花更如詩人白石有

「トツ」哥、今日から毎日図書室の掃除とかあるけど、バイト大丈夫??」

「30分くらいなら大丈夫だよ！――帰らなくちゃいけない時もあるけど、頑張るわ――！」

「オッケー！！！んぢやあさつそく図書室の掃除始めるかつ！！！」
「口は部屋の奥の本棚整理お願ひね！」

「オッケーい！――任せてやあ――！」

私はさつそく図書室の一番奥の本棚の整理に向かつた。

初めて行く図書室の奥

ホーリーがいけどなんか懐かしい、脳がギュルルとするよこの場所・

そこにあるソファにはアキヒロさんが座つてた・・・

「あつ・・・・トッ」「!-?/?何してんの?/?」

素の私は苦手な男性に何故か動搖・・・

さりげなくこの場を離れようとした。隣の本棚に向かつた。

• • • ? ? !

アキヒロさんがアキちゃんと知り合いで、なんか仲良わんわん。

別にアキヒロさんの事が気になつてた訳じゃなくて、あのオタクで妄想仲間だったアキちゃんに、男の陰があつたなんて・・・!!

なんか置いて行かれた気分（笑）

それから、アキヒロさんは大事そうに本を2冊もつてアキちゃんの所に歩いて行つた・・・

アキヒロさんは2冊のうちの一冊をアキちゃんに渡して、子供のような目をしながら本の話をしてた。

私は、その光景を見て、こいつタダのイケメンじゃないな。

こりゃ あイケメンの革命児 . . .
いや、イケメンの異端児 . . .
いやいや、イケメンの秘蔵ツ子 . . .

つて、

言ふ過ぎ（笑）！？

でも、イケメンの中にも「わかつたくない種類だつ！

つて勝手に心の中のイイ人コーナーに仲間入りさせたのであるつ！

それから私は毎日放課後はアキちゃんと一緒に図書室の掃除をすることになった。

「トッ」「ーーー！今日も図書室掃除？？今日あんたバイト休みでしょ？？アヤとサオと買い物行くから来なよ！ーーー！」

「力ネちゃんごめん！！！今日、他の図書委員の休みでアキちゃんしか居ないから掃除行かないといけないのよーっ！後で合流するわ！！！！！」

「おっけい！……んぢやあ後でメールして……真面目に掃除してる
なんてウケるけど、まあ一頑張つて……！」

「一晩多くはナイトバスに入つ……」

それから私はアキちゃんと一緒に図書室に向かつた。

今日も図書室にはいつもの人達が笑えるくらい静かに本を読んでた。

そしてこつものようにアキヒロさんもソファに座つて本をよんだ。

私が掃除してる間アキちゃんとアキヒロさんは、自分のオススメの本を交換するのが日課になつた。

なんか私は蚊帳の外になつちやつた感じ・・・・

なんか悔しくて、私も一人の会話に入りたくて、初めて本を借りることにした。

でも、結局バイトやら遊びやらに追われて読めたのはたった5ページ（笑）

私はいつもの日課、放課後図書室掃除の間にたつた5ページしか読んでない本とお別れした。

結局知的な女にはなれず・・・

その時、

「トックも本好きなの!? 作家は誰が好き? その本良かつた? ??」

アキヒロさんがあの時の子供みたいな目で話しかけてきた・・・

「あああ・・・ 知的な女を目指して本借りたんだけど、無理っす!
! 知的な女を手に入れれば、パーフェクトだつたんだけどね、ま
あー完璧な女は可愛くないからちょうどよかつたけどねつゝガハハ
」

「アハハつ確かにトックにはちょっと似合わないかもな! 一んぢやあこの本はいつもの様にアキに貸すわ!」

「うんー、そうしてくれ! わたしゃ、本棚掃除に戻るわ!」

なんか悔しい・・・・

また私だけ仲間外れになるんかい！――

アキヒロさんとアキちゃんは、このまま読書が一人の共通の趣味になつお付き合いか・・・・

悔しい・・・・アキちゃんは妄想オタク仲間なの・・・・

「うううう、

違つ・・・

まだ私はアキヒロさんと仲良くなつてない・・・

アキちゃんとい付き合ひ事になるなんて嫌だ・・・

そう、

私、トシコ・・・

久しぶりに恋に落ちたつぽい・・・

一度恋に落ちると、ビリビリめでなげなが好きになってしまつ・・・

好きになつた原因なんてワカラナイけど・・・
何をしてたつて一や一やしたり、

無駄に鏡見たり、

カワイイ下着はいて学校いってみたり、

常にムダ毛処理はバツチリになつたり・・・

勝手に相性占いしてみたり・・・（笑）

休み時間ごとに脂とり紙を活用したり・・・

小デブな自分がもの凄く嫌になつたり・・・

昨日食べた2膳分のご飯を恨んだり・・・

今までのおふざけキャラの私らしくないワタシに、私が一番驚いて
るし、恥ずかしくて、ムズムズする・・・

そして・・・彼が登校する時間になると、体が勝手に加速する感じで・・・

あつー！来たつ

「おはよー♪キャビロれー」

「おはよー」

「これだけで飯が三杯食える・・・（笑）

授業中もさりげなくかつ見逃さず、アキヒロさんを凝視（笑）

汚い字・・・数学は寝てる・・・英語の発音は恥ずかしそうに・・・笑
った時の八重歯・・・

全部に心がダンスして、今ならムカツク人の肩だつて揉んでやれる！

私は別に付き合えなくとも全然オッケー！――！

ただ一つワガママが言えるなら、

誰とも付き合わないで・・・つてことだけ

あつーもつーつ（笑）

いつでもいい、何分でも何秒でもいいから、
24時間の内のほんの少しの時間・・アキヒロさんとの一人ぼっち

の時間が欲しい。手をのばせば触れられるほどの距離で・・・

アキヒロさんに恋して多分もう2週間・・・

誰にも言わず、特に何もせず、だけど贅沢に恋つてものを楽しんで
る・・・ハイハイ・・・

どんな映画や恋愛ドラマでも感じたことないキヨン、ニヤン、ナナ
つ、を無理で樂しんでます（笑）

あらためて、恋は無料だつたんだね（笑）

あー、今日もお待ちかねの図書室掃除タイム！

今日は昨日より少しだけ長く喋りたい・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9420c/>

チョイカワ女がイケてるインテリ落とす過程。。。。。。

2010年11月25日01時04分発行